

特集1

住民の皆様に寄り添い、 人と環境と未来に優しい まちづくりを進めています

●町長新春インタビュー — 2024年を振り返って —

— 令和6年を振り返り、印象に残っている出来事を教えてください。

令和6年を語る上で外すことができないのは、元日に発生した能登半島の大地震です。与謝野町においても津波注意報が発令されたことから、沿岸部にお住まいの方々が岩滝小学校グラウンドに避難されていました。改めて能登半島における被害状況を見ると、丹後半島に極めて近い地形を有していることから、震災の状況やその後の復興の動きは、与謝野町に置き換えて考えることができる事案です。能登半島地震に対する支援を通して、仮に丹後半島で同規模の地震が起こった際にどのような

対策をしていくべきなのかを考えさせられました。令和6年においては、震災や地震対策のことを幾度となく考える必要性に迫られた1年でもありました。

— 野田川地域の認定こども園新園舎建設の現状を教えてください。

野田川地域の認定こども園のあり方については、長年にわたる町政課題の一つとして位置づけていました。整備計画地は、石川保育所およびその周辺の農地を活用させていただき、整備を進めていく方向性になりました。昨年は議会の皆様のご納得もいただきながら、用地確保に向けて大きな前進

が見えた年でした。一方で、交通や減災上の課題についてのご指摘もありました。交通課題については、京都府警察のご協力をいただき交通量調査を実施した結果、特段の問題はないという判断でした。また、減災の観点から石川地域は浸水が起りやすい地域とも言える場所です。近年、野田川の河川改修や土砂を取り除く浚渫が順調に進んでいることもあり、大きな被害を受けることはなくなってきましたが、やはり一定の心配があると考えています。今後も野田川改修をしっかりと進めていくとともに、子どもたちに危険性が及ばない工法で整備を進めていかなければなりません。整備計画を

進めていく中で、その都度、住民の皆様には状況説明を行ない、協力をお願いしていく姿勢が重要であると考えています。

— 新園舎の整備を進めていくにあたり、令和6年度末で石川保育所を閉所することになります。石川保育所に通っている園児たちは、一定期間、山田保育所に生活の拠点を移していただくことになるため、双方の園児たちの交流を年間を通して進めています。できるかぎり令和7年4月までに、交流を促進しながら環境の変化に対応しうる状況を作っていく必要があると考えています。

今後においても、町内における保育・教育環境の格差解消、育ち合う子どもたちの環境を整備していくため、積極的に整備推進を

図っていききたいと考えています。

— 旧岩屋小学校跡地で整備を進めている学校給食センター新設の現状を教えてください。

供用開始から40年を経過している学校給食センターと岩滝小学校給食調理室は、衛生管理基準を満たしておらず、整備を要する施設です。私たちには町内の小・中学校に通う子どもたちに、安全で個別最適な給食を提供していく責務があります。現在、建設予定地の旧岩屋小学校跡地はすでに校舎の

解体を終えており、今後は整備工事を具体的に進めていく段階です。特に岩屋地域の住民の皆様には、工事車両が通行することになります。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

整備計画が順調に進めば令和8年秋ごろには供用開始ができ、安全でアレルギーにも対応した給食が提供できると考えています。町内の小・中学校に通われるお子さんに喜んでもらえるような給食を提供していくことができればと思っています。

— 昨年の10月から「よさの乗合交通」の本格運行を開始しました。公共交通をどのようにお考えでしょうか？

与謝野町では、平成21年から「コミュニティバスひまわり」を運行しながら、加悦・野田川地域の中山間地を中心とする公共交通空白地域の移動をお支えしてきました。近年、十分な人材確保ができない状況の中で、やむなくバス路線の減便や廃線をしなければならぬといった事情が起きてきました。そこで与謝野町、公共交通事業者の方々、住民組織で構成する組織の3者が連携し、一昨年の10月から予約型乗合交通「よさの乗合交通」の実証運行を開始。昨年の10月には本格運行に移行しました。

住民の皆様にとって、お住みの地域から買い物拠点や医療機関などにスムーズに移動することは、生活をしていく上で重要なことの一つだと思っています。現在、予約型の乗合交通システムを提供させていただいていますが、住民の皆様からのご意見もいただきながら

— 山添町政3期目の集大成への抱負と住民の皆様へのメッセージをお願いします。

早いもので、住民の皆様からご信頼をいただけてから4年目に入ります。先の選挙において、改めて住民の皆様と触れ合いながら町内全域を駆け巡る中で、与謝野町の可能性と希望に触れることができました。住民の皆様にお約束をした公約を前に進めていくために、令和7年においても住民の皆様とともに良いまちづくりを進めていくために、全身全霊をかけて取り組んでまいります。

結びに、住民の皆様には与謝野町の行財政運営に対する格別のご協力をいただきますとともに、令和7年がこの上ない年になりますよう心から祈念しております。



山田保育所・石川保育所交流事業（もちつき大会）



本格運行を開始した「よさの乗合交通」の出発式